

■自己評価結果公表シート (平成30年度) 学校評価委員会資料 ①保育園

1、園の保育目標

- ① よく考え、よくみつめる
- ② よく食べ、よく遊び、健康に過ごす
- ③ 友達と元気に仲良く遊ぶ

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ◎園内研修に参加し、保育内容の知識を深め、積極的に保育に活かす。
- ◎アレルギーの知識を深め、子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけると共に、誤食のないように努める。
- ◎発達段階だけではなく、個々の性格や意欲を見据え、担当制の枠にとらわれず、一人ひとりの思いを汲み取る。
- ◎低年齢児の子どもの負担のないよう、幼稚園児と自然なかかわりをねらいに置き、幼稚園職員と連携する。
- ◎定期的に玩具を見直し、発達段階に応じた玩具やコーナー作りを心がけ、子ども達が落ち着いて遊べる環境を作る。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
園内研修に参加し、保育内容の知識を深め、積極的に保育に活かしたか。	知識が深まり、子ども一人ひとりの個性や発達を10の姿に置き換えて考えるようになった。今後は、保育に活かすことが課題である。
アレルギーの知識を深め、子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけると共に、誤食のないように取り組めたか。	重度のアレルギー児がいたため、机を分け、必ず保育士が一人ついて、食事の介助をすることを徹底した。しかし、誤食を防ぐことが第一だったため、今後は気持ちに寄り添った対応を考えたい。

発達段階だけではなく、個々の性格や意欲を見据え、担当制の枠にとらわれず、一人ひとりの思いを汲み取ることができたか。	子どもが自分の意思で行動できるように関わってきた中で、ゆったりとした環境で遊び込むことの大切さや面白さに気付くことができた。また、担当のグループだけではなく、他のグループの子どもにも積極的に関わることを大切にしました。
低年齢児の子どもに負担のないよう、幼稚園児と自然なかかわりをねらいに置き、幼稚園職員と連携できたか。	今までとは違う交流方法を試す機会を設け、保育園側の意見も伝えることができた。主に2歳児の交流が中心だったので、今後は兄弟学級にかかわらず、園全体でのかかわりをしていきたい。
定期的に玩具を見直し、発達段階に応じた玩具やコーナー作りを心がけ、子ども達が落ち着いて遊べる働きかけはできたか。	子どもの様子を見て、ブロックを色分けしたり発達段階に応じたパズル、指先遊びなど準備ができた。しかし、継続性がなく、今後もコーナー設定は課題である。

4、の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

B	幼保合同研修を通して、10の姿を意識したり、ドキュメンテーションを作成したりすることで、子ども一人ひとりの個性や発達の知識が深まった。今後は、学んだことを園としてどのように保育に活かしていくか、職員全体で考えていきたい。
----------	--

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み状況
子どもの気持ちに寄り添った保育を目指す	職員間で日頃から子ども達の様子を伝え合い、一人ひとりの発達と個性を見て対応することを心がける。
保育の可視化を目指す	ドキュメンテーションや10の姿を基に、乳幼児の保育の充実を図り、保護者にも保育内容が伝わるように努める。

アレルギー対応の知識向上と、共通理解に努める。	職員の知識を深めると共に、園全体で誤食のないように努める。
全職員の資質向上を目指す	園内外の研修に積極的に参加し、保育内容の知識を深め、積極的に保育に活かす。担任だけではなく、フリー保育士とも連携する。
保育室と廊下環境見直しを図る	廊下の環境担当を作り、季節に応じた壁面や装飾を行う。また、園内研修で学んだことを職員間で話し合っ、園の方向性を位置づける。継続性のある遊びを各クラス課題にする。